

神奈川県保健医療計画 進捗状況評価調書

<項目> 第8章 個別の疾病対策等 第1節 認知症施策

とりまとめ担当課：高齢福祉課

1 課題に対するこれまでの取組実績

(1) 認知症の人にやさしい地域づくり	→ 認知症サポーターの養成 (H30：累計 619,566 人) → 認知症キャラバンメイトの養成 (H30：累計 8,250 人) → 認知症サポート医の養成 (H30：累計 325 人) → かりつけ医認知症対応力向上研修の実施 (H30：修了者 106 人) → 認知症疾患医療センターの設置 (H30：累計 12 箇所) → 若年性認知症支援コーディネーターの配置 (H30：3 人)
(2) 認知症未病対策	→ 県民向けシンポジウムの開催 (H30：参加者数 340 人) → プロスポーツチームによる、高齢者と子どもが一緒に行う継続的な運動プログラムの実施 (H30：参加者数 高齢者 21 名、子ども 19 名) → 県立高校の生徒及び教員を対象とした、認知症のVR (バーチャルリアリティ) 体験の実施 (H30：参加生徒数 11 校 1,280 名)

2 参考指標の推移

指標名	単位	神奈川県内					参考指標を設定した理由	備考
		H30	R 1	R 2	R 3	R 4		
認知症サポート医養成数(累計)	人	325	345	365	385	405	認知症の早期発見、早期対応のため、認知症サポート医の養成により体制を整備するため。	

3 課題ごとの進捗状況の評価

(1) 認知症の人にやさしい地域づくり

評価	A ・ B ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーター及びキャラバンメイトの養成により、認知症に関する理解の普及促進を図った。 ・ すべての市町村に認知症初期集中支援チームが設置され、併せてチーム員の中核となる認知症サポート医を養成することにより事業体制整備を図った。 ・ 認知症疾患医療センターを2次保健医療圏に1か所以上配置した。また、若年性認知症支援コーディネーターを3名配置し、認知症疾患の鑑別や、若年性認知

	症の人や家族への支援を進めた。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職域関係からの認知症サポーター養成講座の依頼が増え、職域担当者のキャラバンメイト養成研修の受講も進めるなど、順調に推進している。 ・ 認知症初期集中支援チームの設置により、市町村担当者会議で先駆的に実施している自治体、認知症サポート医からの取組を報告する等充実を図り、順調に推進している。 ・ 県内の認知症疾患医療センターの連絡会議を開催し、充実強化を図るとともに、若年性認知症の人や家族の支援のためリーフレットを作成する等順調に推進している。

(2) 認知症未病対策

評価	(A) ・ B ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民向けシンポジウムでは、アンケートの結果、回答者の9割が「認知症への理解が深まった」、「認知症の未病改善を実践したい」としており、参加者の認知症や未病改善に対する理解の促進がみられた。 ・ プロスポーツチームを活用した継続的な運動プログラムでは、複数のメディアで紹介されるなど、プロスポーツチームを活用することで、未病改善の効果的な普及啓発が図られるとともに、参加者の行動変容がみられた。 ・ 高校における認知症のVR体験では、実施後のアンケートにおいて、認知症や未病改善に対する理解の促進がみられた。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「未病を改善する」観点からの認知症の理解促進や、行動変容に向けた取組を着実に進めた。 ・ 認知症や未病改善に対する理解の促進や、参加者の行動変容など、取組の成果も出ており、順調に進捗していると評価している。

4 総合評価

評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーター・キャラバンメイトの養成について比較的順調に進捗している。 ・ 認知症初期集中支援事業についてはすべての市町村がチームを設置し、事業体制を整備することができた。 ・ 認知症未病対策の取組を着実に進め、理解の促進や参加者の行動変容などの成果も出ている。